

[友朋会広報誌]  
vol.63

# 風だより

## Contents

02 創立45周年を迎えて

§ 45周年記念シンポジウム

03 「地域から友朋会へ期待すること」

04 連携室だより

05 精神科リハビリテーション

06 美術館祭報告・新先生の紹介

07 ボランティア演奏会

08 診療科の紹介及び診療担当医師一覧表  
患者様の権利宣言(一般科)(精神科)





# 創立45周年を迎えて

文=友朋会理事長 中川 龍治

平成22年3月7日で、友朋会 嬉野温泉病院は創立して、45年という月日が経ちました。ここまで歩むことができましたのも、我々の医療を受けてくださる患者様とその家族の皆様方、ご理解とご協力をいただいている地域の皆様方、そして、45年という歴史を支えてきてくれました職員の皆さんのおかげであると存じます。心より、皆様方に感謝いたします。

平成22年4月3日土曜日には、創立45周年記念式典を挙行了いたしました。例年通り、午前中には10年、20年、30年の永年勤続の職員表彰と15年勤続者の意見発表を行いました。それに加え、45周年記念イベントとして、午後からは「地域から友朋会へ期待すること」というテーマにてシンポジウムを行いました。嬉野医療センターの岡忠之統括診療部長をはじめといたしまして、地域の医療・福祉・行政・学校関係の方7名と当院の職員2名による意見発表とディスカッションを行い、有意義な時間を皆様方と共有できたと存じます。私たちが日頃から行っていますことを皆様が高くご評価いただきましたことは、式典に参加しました約400名の友朋会職員はじめとする全職員のこの上ない「自信」とさせていただくことができました。



また、精神科やリハビリの専門性を深めること、精神科救急など本格的には取り組んでいないことへのチャレンジ、啓蒙活動の促進、人的交流を深めることなど、たくさんのアドバイスはこれからの友朋会の指針となりました。

45周年というこのような節目の年には、足元を見つめ、歴史を振り返り、理念と基本方針を検証し、将来をしっかりと見据えるということ、特に意識して、やらなくてはいけないと考えております。そのためには、第三者のご意見をしっかりと賜り、そして、それを十分に反映する必要があります。友朋会は夢と理念をもって前進しなければなりません、それが独りよがり自己満足に終わっていないかの検証も怠ってはいけません。その意味では、今回のこのシンポジウム「地域から友朋会に期待すること」は素晴らしい機会となりました。11月には、医療機能評価機構の3回目の受審がありますが、この機会も、また、第三者による振り返りのできる重要な機会です。しっかりと準備を行いたいと存じます。

私自身、毎年の創立記念式典は、友朋会を支えてきてくれました職員の皆様方と友朋会の歴史を作ってきたくださった元職員の皆様方への感謝の日であると位置付けております。今回のシンポジウムの際に、古賀義孝保健監から、「全国的にも珍しい先進的な精神科医療を展開した経験を有する友朋会の職員の人たちの力」という視点をご教授いただきました。あらためて、そのように力強い友朋会の職員の皆様方に心より感謝申し上げます。そして、あたたかい理解を示していただいております地域の皆様方に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。



嬉野医療センター 統括診療部長  
岡 忠之氏



佐賀中部広域連合 保健監  
古賀 義孝氏



特別養護老人ホームうれしの 相談課主任  
諸上 栄大氏



社会福祉法人 済昭園 介護部長  
山中 寿雅子氏



鹿島西部中学校 養護教諭  
馬場 弘子氏



特定非営利法人 鹿陽会 理事長  
藤川 見義氏



嬉野市議会議員  
山口 要氏



友朋会 医療福祉課主任  
正司 史臣氏



友朋会 介護職員  
香田 恭江氏

シンポジウムでは、それぞれの立場の方々から様々な意見を頂きました。これらのご意見を今後の友朋会の地域貢献に役立てていきたいと思っております。  
シンポジストの皆様ご協力ありがとうございました。



# 連携室だより

## 地域連携パス運用のご紹介

地域連携パスとは、地域で手術などの急性期医療を担う病院（急性期医療機関）とその後のリハビリなどの回復過程を担う病院（回復期医療機関）が、共同で治療計画を立て、患者様に早期に住み慣れた地域に戻って生活していただく為に使用する連携ツールです。診療にあたる複数の医療機関で共有して、役割分担や診療内容をあらかじめ患者様に説明することにより、患者様が安心して治療を受けることができるようにするものです。

当院は回復期医療機関として複数の急性期医療機関と連携し、H18.7月より大腿骨頸部骨折 H20.4月より脳卒中の地域連携パスを使用した患者様を受け入れています。地域連携パスを使用した患者様の場合、患者様の病状や身体状況を入院前に把握することができる為、転院早々から患者様一人ひとりに合わせた効果的なリハビリを行うことができます。

また、必要性に応じて、介護保険申請の援助、ケアマネージャーの紹介、住宅改修（手すりの設置、屋内の段差解消など）のアドバイスなど患者様が自宅もしくは施設で生活される際に不安のないように在宅復帰のお手伝いをしています。

地域連携パスの使用を開始したことで、急性期医療機関との連携が深まり、患者様に関する情報交換が円滑に行えるようになりました。急性期医療機関から提供された患者様の情報は、当院でのリハビリや看護の計画に反映させていただいています。また、地域連携パスを使用することにより、関連職員においても患者様の退院に向けた援助の必要性を強く意識するようになり、大腿骨頸部骨折の地域連携パスを使用した患者様の平均在院日数（リハビリ・治療と在宅復帰に向けた準備に要する期間の平均）は、平成18年度89.9日、平成19年度80.8日、平成20年度67.3日と年々短縮してきています。脳卒中の地域連携パスを使用した患者様の平均在院日数は、平成20年度126.5日と大腿骨頸部骨折に比べて長くなっていますが、今後多くの患者様と関わらせて頂く中で、短縮に向けて努力していきたいと考えています。

また、今年度は地域における医療機関の連携に対する評価として、診療報酬改訂が行なわれます。これまでは、急性期医療機関と回復期医療機関との間の連携が評価されていましたが、退院後の生活を見通し、入院後比較的早期から介護サービスの導入を見越して介護サービス事業所などとの地域連携診療計画（地域連携パス）を運用することに対しての評価が新設され、本来の地域連携の姿が評価された改定となりました。

地域連携室は上記の役割を果たすべく、入院される全ての患者様が早期に住み慣れた地域に安心して退院して頂くことを目標に、今後もより一層患者様本位の視点に立ち、他の職種と協力して医療・福祉・介護サービスなど疾病の回復過程に沿った一連の援助を行っていきたいと考えます。



（担当：山口紀子）

## 第17回日本精神障害者リハビリテーション学会福島大会参加レポート

精神科 医師 谷口研一朗

2009年11月21日から23日に、福島県郡山市で開催されたこの学会に、理事長から「ワークショップを担当するので参加してみないか」と誘っていただいた時は正直積極的に参加したいと思ったわけではありませんでした。しかし、その後学会について調べるうちに、当院での芸術療法の取り組みを伝える良い機会になりそうだということ、主催がP'sプロジェクトを始めるきっかけとなった取り組みをされている「あさかホスピタル」であることを知り、俄然気持ちが前向きになりました。



学会に先立ち、理事長から芸術療法についての講義と陶芸療法体験が企画されました。私は友朋会に勤務し始めて12年近くになり、芸術療法の場面には何度も接したことはあるのですが、恥ずかしながら実際に陶土に触れるのは初めてでした。その土の感触は、柔らかく、冷たく、多少砂の感触が残る伸びのある粘土質で、想像以上に形を整えるのが難しかったのを思い出します。経験豊富な療法士のサポートで見る見る形は整っていき、軽い嫉妬さえ感じました。この機会は大変貴重なものとなり、実際の学会ワークショップでは、参加者に私なりの助言が出来たのではないかと思います。ワークショップには陶芸経験者も数名参加されましたが、多くは未経験者で、最初は戸惑いも見られましたが、陶土に触れるうちに徐々に緊張もほぐれ、作陶を通してスタッフとの関係も深化していきました。参加された皆さんにとっても、スタッフにとっても有意義な時間になったと感じています。

また、この学会ではランチオンセミナーで、理事長の芸術療法に関する講演もありました。講演では当院開設以来の絵画療法作品が多数紹介され、描かれた当事者の歴史と重なる時、深い感動を覚えました。

今回、あらためて芸術療法の意義や効果について考える良い機会となりました。そして治療の場でもっと利用できるのではないかと感じています。我々はせつかく芸術療法のある素晴らしい環境にいるのですから、多くのスタッフに芸術療法に対する関心をもってもらい、指導できるスタッフの育成も考えていければと思います。

最後に、学会の懇親会ではあさかホスピタルが運営する児童施設音楽隊の演奏や、地元、日本大学のよさこいチームの演舞で会場は大変盛り上がり、大満足の学会となりました。強いて言えば、観光の時間も欲しかったかも……。レンタカーで1時間ほど移動してわざわざ食べに行った喜多方ラーメンは美味しかったです。

来年度の学会は、北海道・浦河で開催。なんと「べてるの家」が主催です！





# 😊 NEW FACILE



～奥 栄作 先生～

本年4月1日付けで着任いたしました。約5年ぶりに再度お世話になります。高速道路嬉野インターを降り病院の景観が目飛び込んでくると懐かしさが湧いてきました。そして景観もさることながら、当時受け持たせていただいた患者さんの顔を拝見したり、挨拶に応じていただいたりすると懐かしさと同時に朗らかな気分になる今日このごろです。しかし、懐かしがってばかりではいられず、当時とは診療体制や情報システムなども進化しつつあるなか、業務に慣れるのに時間がかかりそうで、不安もよぎります。さらに体力の問題も無視できず、起伏の激しい地理的条件を縦横無尽に動けるようになるにはこれまた時間がかかり必要かと思われま。こんな風な者なのでしばらくは色々な面でご迷惑をかけることと思ひますが、やさしいご指導をお願いいたします。最後に、友朋会での診療を通して精神科医療の知識、技能の習得に努めたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

## 第13回アートセラピー美術館祭

大会委員長 森 啓訓

第13回アートセラピー美術館祭が平成22年3月6日(土)に行われました。今回は、陶芸・絵画・音楽・連句・コラージュ・クラフト・園芸(A班・B班・C班・D班)・料理教室の計8療法のワークショップに、テーマを「体験から得られるところのつながり」と掲げ、シンポジウムが行われました。

ワークショップの職員の参加者は計181名に上りました。参加された職員の皆様には患者様の立場となってそれぞれのワークショップで制作体験をしていただき、日頃当院で行われている各種の芸術療法に触れていただきました。芸術療法という難しい印象を与えると思ひますが、基本は「ものづくり」を楽しんでいただくことです。楽しいという健康的なところに働きかけ、自分のところの中にあるものを自由に表現する創作活動を通して心身の調子を整えていく療法です。そして療法の対象となる方は老若男女問いません。

ワークショップ終了後は会場を大ホールに移しシンポジウムが行われました。司会を当院の精神科医の富松先生と三根先生が行い、各種療法のワークショップ担当責任者と会場のワークショップに参加された職員を含め、今回のワークショップを通じて、テーマの「体験から得られるところのつながり」についてシェアリングを行いました。

まず各種療法のワークショップ担当責任者より、それぞれ行った創作活動についての紹介と参加者の様子が語られ、その後会場より各種療法のワークショップに参加された職員より患者様の立場となって参加し、感じたことや考えたこと等の感想を話していただきました。そして質疑応答を挟みながら、テーマに沿って「体験」とは?「ところのつながり」とは?「芸術療法」の役割とは?と話しは続いていきました。最後に三根先生より実体験を通して「つながり」について話をいただきました。

今回の美術館祭は、芸術療法というものづくり体験を通して「ところのつながり」を体験していただきました。そしてその「ところのつながり」は信頼関係なくしてはなりたちません。それは医療を提供している私たち病院職員全員が、患者様との「ところのつながり」を改めて考える機会となったことと思ひます。



# ポランティア演奏会

東京メトロポリタン・ブラス・クインテット

平成22年1月6日に東京都交響楽団のブラス・セクションの有志で結成された日本の金管五重奏団、東京メトロポリタン・ブラス・クインテット(トランペット:高橋敦氏、中山隆崇氏、トロンボーン:小田桐寛之氏、テューバ:佐藤潔氏)と同楽団の首席チェロ演奏者(田中雅弘氏)の皆さんがポランティアで友朋会朋寿苑に来ていただき、素晴らしい演奏をして頂きました。



昨年、プロ、アマ、ハンディキャップミュージシャンが嬉野に集まり『湯らつくすコンサート』が開催されました。当院からも軽音楽部が参加しコンサートは大盛況のうちに終わりましたが、このコンサートの取り組みに感銘を受けた田中氏が嬉野でのポランティア演奏を是非行いたいという事で今回の演奏が実現しました。

演奏はまず、チェロ演奏から始まりました。白鳥、朧月夜、荒城の月、浜辺の歌、バッハの無伴奏チェロ組曲第3番、鳥の歌スペインの順で演奏して頂きました。柔らかい音から力強い音、和音のようなやさしい響きなどひとつの楽器で演奏しているとは思われないような素晴らしい演奏でした。鑑賞された方は、童謡が演奏されると自然と口ずさまれたり、静かに目を閉じ頭でリズムをとりながら演奏に耳を傾けられる方もいました。演奏が終わる度に自然と拍手が起こり、目には涙を浮かべられる方もおられました。

田中氏の演奏が終わり、チェロの優しい音の余韻に浸っていると目が覚めるようなトランペットの音が会場に響きわたりました。その迫力ある音にひきこまれていく中で東京メトロポリタン・ブラスクインテットの演奏が次に始まりました。ガブリエリのカンツォンやバッハのコラール、ゴールドマンの木陰の散歩道を演奏して頂きました。3つの楽器がそれぞれ個性のある音を奏でているにも関わらず、まるで一つの楽器で演奏しているような一体感、ハーモニーは素晴らしいものでした。演奏終了時にはなんともいえない高揚感を覚えました。今までほとんどクラシックを聴いたことが



なかったという高齢者の方も笑みを浮かべ、大きな拍手を送り「ありがとうございました」といわれている姿はその演奏のすばらしさ、音楽のパワーを改めて感じる事となりました。田中雅弘氏、東京メトロポリタン・ブラス・クインテットの皆さん、まさに「Music is Noborder」といわずにはいられないような素晴らしい演奏を本当にありがとうございました。



# 診療科の紹介及び診療担当医師一覧表

\*診療時間 ○月曜～金曜

○午前の部/8:30～12:30(第1土曜 8:30～12:30) ○午後の部/13:30～17:00

※ただし、水曜、金曜の眼科外来は10:00より開始

\*休診日/第2・3・4・5土曜、日曜、祭日、年末2日、年始3日間

\*予約診療/待ち時間短縮のため、予約診療とさせていただきます。ただし、新患、急患の場合は随時受け付けます。

日曜診療は精神科第2、第4日曜の午前中に予約診療を行っています。

平成22年6月1日現在

診療科目		月	火	水	木	金	土	
精神科	(新患)	精神科一般	1 菅高	三根	谷口	富松	奥	担当医
			2 谷口	吉本	菅高	奥	富松	
		ものわすれ	1 吉本	松尾	田中	松尾	吉本	
			2 中山	中山	谷口	田中	松尾	
	(再来)		富松	田中	中山	吉本	三根	予約者のみ
			松尾	谷口	奥	中山	菅高	
内科		榎	木原	竹下	林原/岡本	岡本	非常勤医師	
泌尿器科		倉富	江原	倉富	江原	倉富	倉富	
眼科		崎戸(13時～)		崎戸(10時～ 13時30分～)		崎戸(10時～ 13時30分～)		
歯科外来		和智	和智	和智/山田	和智	和智	和智(第1AM)	

\*眼科の診療時間 ○月曜日 午後のみ13:00～17:00 ○水・金曜日 午前10:00～12:30 午後13:30～17:00

## 患者様の権利宣言(一般科)

医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院

- 個人の尊厳を守る権利  
常にひとりの人間としての人格を尊重される権利があります。
- 公平で差別されない治療および対応を受ける権利。  
平等で差別されない治療および対応を受ける権利があります。  
治療で達成可能な最良の医療を受ける権利があります。
- インフォームド・コンセントと自己決定権  
治療・検査について、分かりやすい説明を受け、医療の内容を理解し同意した上で適切な治療および対応を受ける権利があります。  
自分の治療計画に参加し、自分の意見を表明し、自己決定できるようにサポート(援助)を受ける権利があります。
- 情報に関する権利  
当院で行なわれたご自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。
- プライバシーの保護と秘密保持の権利  
医療の過程で得られた個人情報は、秘密として遵守され患者様・家族様の承諾なしに開示されない権利があります。
- その他の権利  
退院後の地域における生活を見据えた治療計画が立てられ、それに基づく治療や福祉サービスを受ける権利があります。

入院中の患者様は、適切な医療を受け、安心して治療・療養に専念することが出来るよう上記の権利を有しています。また、これらの権利が患者様・家族様および病院職員をはじめ全ての人々に十分に理解され、それが保障されることこそ患者様の人権を尊重した医療を実現していく上で欠かせない重要なことであることをここに明らかにします。

## 患者様の権利宣言(精神科)

医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院

- 常にどのようなときでも、個人として、その人格を尊重される権利  
暴力や虐待、無視、放置など非人間的な対応を受けない権利
- 自分が受ける治療について、分かりやすい説明を理解できるまで受ける権利  
自分が受けている治療について知る権利
- 一人ひとりの状態に応じた適切な治療及び対応を受ける権利  
不適切な治療及び対応を拒む権利
- 退院して地域での生活に戻っていくことを見据えた治療計画が立てられ、それに基づく治療や福祉サービスを受ける権利
- 自分の治療計画を立てる過程に参加し、自分の意見を表明し、自己決定できるようにサポート(援助)を受ける権利また、自分の意見を述べやすいように周りの雰囲気、対応が保障される権利
- 公平で差別されない治療及び対応を受ける権利  
必要な補助者等をつけて説明を受ける権利
- できる限り開放的な、明るい、清潔な、落ちつける環境で治療を受けることができる権利
- 自分の衣類等の私物を、自分の身の回りに安心して保管しておく権利
- 通信・面会を自由に行える権利
- 退院請求を行う権利及び治療・対応に対する不服申立てをする権利  
これらの権利を行使できるようサポート(援助)を受ける権利  
また、これらの請求や申立てをしたことによって不利に扱われない権利

入院中の患者様は、適切な医療を受け、安心して治療に専念することができるよう、上記の権利を有しています。これらの権利が、患者様本人および医療従事職員、家族をはじめ全ての人々に十分に理解され、それが保障されることこそ、患者様の人権を尊重した安心してかかれる医療を実現していく上で、欠かせない重要なことであることをここに明らかにします。



医療法人財団 友朋会

〒843-0394  
佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919  
電話:0954-43-0157  
FAX:0954-43-3440  
E-mail:info@yuhokai.com  
URL:http://www.yuhokai.com/

- 嬉野温泉病院 0954-43-0157
  - 精神科デイケア・ナイトケアセンター 0954-43-0194
  - 老人デイケアセンター 0954-43-0233
  - 介護老人保健施設 朋寿苑 0954-42-2900
  - 友朋会介護サービスセンター 0954-20-2531
  - グループホーム 千寿荘 0954-43-0157
  - 授産施設「希望」 0954-43-0249
  - 地域連携室 0954-43-0255
  - 小規模多機能ホーム「孝心の里」 0954-43-7550
  - ものわすれメンタルクリニック 092-534-5151
- 〒815-0082 福岡市大橋2-19-20ピュアドームエレガント平尾3F